

青少年の主張

Opinions of Teenager

発表作文



「^{たす}介け合って生きていくために」

坂祝中学校 3年 小森 愛音羽



想像してほしい。

大切な家族や友達、知り合いの誰かが突然、「あなた誰ですか」と尋ねてくる。思い出話をして、「知らない」と横に首を振る。そして「家に帰して」と訴えてくる。そこが家なのに。

さて、何を思っただろうか。

私の曾祖母は、優しくて穏やかで、私たち一家の大黒柱だった。曾祖母は幼い私や姉に毛糸で座布団を編んでくれたり、食事を作ってくれたりして、私はそんな曾祖母が大好きだった。しかし曾祖母は、次第に一人でできていたことができなくなったり、色々なことを覚えていられなくなった。曾祖母は、認知症になってしまったのだ。

私にとって曾祖母は、「特別」な人だった。だから本当に認知症なのだろうか、と疑問を抱いていた。それに「私はあなたのお孫だよ」と言つと、「そうだそうだ」と言つて笑いかけてくれたのだ。歳を取って少し忘れっぽくなったけれど、私のことをしっかり覚えてくれていた。そう思っていた。だが、それは思いがけず覆されることとなった。

その日、私は祖母に頼まれて、曾祖母と二人つきりで留守番をしていた。曾祖母は突然、「家に帰りたい」と訴えてきた。戸惑った私は、

「おばあちゃん、ここが家だよ。待って

て」

と言つて、必死に曾祖母が家にとどまってくれる理由を探した。しかし曾祖母は、「ここはどこ？早く家に帰して」と涙ながらに訴えてくるばかり。

どうすればいいのだろうか……。

私は泣き出す曾祖母にどう対応すればいいのか分からなかった。どうしてこうなってしまったのだろうかという思いが巡り、私は曾祖母から離れて一人で泣いた。病気のせい、病気のせい……。

そう思い込もうとしたが、私の涙が止まることはなかった。

私はこの経験から、介護をする祖母達はいつも、泣き出したくなるような感情を抱えているのだと実感し、胸が切なさでいっぱいになった。と同時に、そんな祖母や介護者に尊敬の思いを抱いた。そして介護を一人で背負っていくことの難しさや、苦しみを知った。

私の曾祖母の介護は主に祖母がしていた。しかし、祖母以外の家族やケアマネージャーさんたちの助けも借りていた。私はそういう色々な人の助けがあつてこそ、祖母は曾祖母の介護を続けられたのだと思う。

しかし今の日本には、そういう助けが必要としても、なかなか助けが受けられていない人が多い。

私はあるテレビ番組で、日本の介護の

実態を取り上げているのを見た。母親の介護で早期退職するも、金銭面、精神面でもギリギリの状態でも一人で介護。そしてその方は、母親を病院に預けて自殺を図つたのだ。

「自分がやらないと」

その方はそう言っていた。

介護は決して一人でできるものではない。それなのに、その方を救うことができた人はいなかったのだろうか。その方は誰かの手を借りることはできなかったのだろうか。私は疑問を抱いた。

今の日本は、超高齢化社会だ。老老介護、ヤングケアラーなど、無視できない言葉がたくさんある。また介護の負担による悲しい事件も日常的に起こっている。

祖母は私に「いてくれてありがとう」と言つた。そんな祖母の言葉から、介護は一人ではなく、みんなが助け合つてするものではないか。そう私は訴えたい。

家族の中に介護を必要としている人がいなくても、いずれは介護され、することになることを忘れないでほしい。そして介護をしている人が周りにいたら、話を聞いてあげたりして力になってあげてほしい。

これから先、介護に悩む人が一人でも救われていくために……。



「私が世界からなくしたいもの」

坂祝中学校 3年 藤木 叶愛

「いじめはこの世界からなくすことができますか。」きつと誰もが「いいえ、できません。」と答えます。では、質問を少し変えます。「みなさんの近くで起きているいじめはなくせますか。」

今、みなさんの考えが変わり、それならできるかも、という気持ちになった人がいると思います。私はその気持ちを大事にしてほしいと考えています。なぜなら、その気持ちにあと少しの勇気があれば、それはいじめで苦しんでいる人の光になるからです。

みなさんは、日本だけでどれくらいいいじめが起きていると思いますか。2020年10月12日までで、全国のいじめ認知件数は過去最多の612,496件となっております。しかし、公にでている事がすべてではありません。まだ知られていないいじめだつてあるはずですよ。このように考えると、今だつていじめで苦しんでいる人達はたくさんいるのです。そこで、私は提案します。身近ないじめからなくしませんか。誰にだつていじめをなくす力はあると私は考えています。なぜなら、いじめをする人は、一人ではなにもできないからです。そもそもいじめは、ある人の理不尽から起こります。例えば、AさんがBさんの弱いところを見つけてます。すると、Aさんはそれを利用して自分の不安やイラつきを、悪口や

嫌味として他のCさんやDさんなどと共有します。このように、Bさんはいじめられて当然であるという雰囲気をつくりだしていき、いじめが始まっていくのです。しかし、それはいじめの側が楽しいだけで、いじめられる側は嫌な気持ちになるだけです。いじめがエスカレートしていくほど、いじめられている人はどんどん苦しめられます。そして自殺を考える人だつて少なくありません。私はいじめをする人に言いたいと思います。もし、その人が死んでしまったらどうしますか。あなたの何気ない一言がたつた一つの尊い命をうばつたら責任をとることができません。後になって後悔して遅いのです。もし、そうなつてしまったら、その十字架を背負つて生きなければなりません。

これらを防ぐためにも、みなさんで身近ないじめをなくしましょう。いじめは一人ではできません。それならば、みなさんでそれは間違つていいると気付かせましょう。決していじめの側に立つてはいけません。いじめはかっこ悪いです。陰でこそそと動く卑怯者のすることだからです。

今、あなたの周りでいじめられている人はいませんか。もしいるのなら、助けてあげてください。それだけでその人には今までになかった安心感が与えられます。

自分は誰かを助けられる人になれるのかなと考えているみなさん。なれる、なれないではありません。なつてみせるのです。一人ではいじめをなくせません。そのため、仲間をつくつてください。あなたのその勇気に手を貸してくれる人は必ずいます。

いじめで苦しんでいるみなさん。勇気を出して助けてと声を出してみましよう。いじめがエスカレートするかもしれない。誰も助けてくれないかもしれない。そんなことを気にしていたら何も始まりません。いじめだつて終わりません。必ず誰かは耳を傾けてくれます。

私は、いじめをするのは絶対におかしいと誰もが思う社会をつくつていきたい。苦しんでいる人がいるなら誰でも寄り添つてあげられる世の中にしていきたい。今回の主張はそんな社会をつくつていくきっかけにしたいと思つています。いじめは身近に聞く言葉であり、身近にあつてはいけません。これを踏まえ、もう一度聞きます。「いじめはこの世界からなくすことができますか。」